Hijicho
大阪市立大学新聞

2018年6月
第59号

ボート祭でのコンサートバンドのステージ＝5月19日、中村伸二撮影

教授が語る夢「松本淳准教授」 …p.2

ニュース・コラム

■ マダム鳥子のピーチクパーチクうるさいわね！
■ 新ＢＯＸ棟来年夏頃移転か　未だ問題山積み
■ 2018年度ＢＯＸ総会告知 …4
■ クラブよ～いドン！「無料法律相談所」
■ 大学ってどんなところ？市大授業開催 …6
■ レンゲdeすみ博開催 …8
■ チームワークを生かして 第127回ボート祭開催
■ あなたの血で命を救え！献血体験レポ
■ それゆけちびっこ市大生！杉の子保育園レポ …14

読者投稿コーナー・漫画

■ 四コマ漫画 「それゆけひじちょうさん」
■ 市大川柳
■ 大喜利コーナー ICHIDAIグランプリ

教授が語る夢「松本淳准教授」

本学のさまざまな教授にインタビューを行い、それぞれの夢や思想を伺うことで教授自身のことを追及していくこのコーナー。第13回となる今回は経済学研究科の松本淳教授にお話を伺った。松本教授はゼミに対する情熱が凄いことで経済学部で有名だ。経済学部のゼミは1人の教員に最大12人の学生が付き、論文を読んだり研究内容の発表を行い、最終的には卒業論文を執筆することで専門科目への理解を深める授業である。

松本教授＝本学経済学研究棟で4月20日、加藤菜々子撮影

――なぜ教員になられたのですか。

父がもともと大学教授で、私が小学生の頃、よくゼミ合宿に連れて行ってもらっていました。その時、大学生の人たちにかわいがってもらい、大学生を身近な存在に感じました。海での泳ぎ方やスキーの滑り方を教えてくれたりしました。自由に遊んでいるのに小学生にはわからない難しい勉強の話もしていて、小学生の頃の自分からすると大学生はかっこよくて憧れの存在でした。そのようなこともあり、大学3年の就活時に大学生とずっと関わっていられるような仕事に就きたいと思い、大学教員を志望しました。

――どのようなことを研究されているのですか。

主に社会保障制度や租税制度など日本の所得再分配政策について研究しています。しかし研究を進めていくうちに、再分配政策のあり方を考えるにはもっと俯瞰的な観点が必要だと感じました。具体的には、俯瞰的に観察することで新たなコミュニティーや働き方、家族の在り方に関心を持ち、最近は地方に関する調査を行っています。

――ゼミにはどのような思いで取り組んでいるのですか。

私にとって大学生はヒーローだったので、ゼミ生にはかっこいい人間になってほしいです。かっこいい人とは、自分で決めたことに真剣に取り組む人だと思っています。

また、ゼミ生には主体性や自律性を求めています。一人一人がやるべきことを考えて、それに全力で取り組んでいくというのがベストです。強力な個が集まって全員でチームとして何か一つのものを作っていきたいです。

さらに、自分たちの考えるべきものを見出すには現場を知ることが大切です。ゼミでの活動は現場を見て、自分たちの責任で進めていってほしいと思っています。

――趣味は何ですか。

趣味はゼミですね（笑）。辞書を引いたら趣味とは「仕事と関係なく、個人が楽しみにしている事柄」だと定義付けされていました。そう思うと、ゼミを仕事だと思ったこともないし、ゼミを仕事だと思っていたらここまで取り組んでいません。

――夢は何ですか。

夢は、日本のどこにもないゼミを作ることです。

――大学生にメッセージをお願いします。

大学生には好きなことを追求してほしいです。人間は他人が決めたことを言われるがままにやって、悪い結果が出たときそれを他人のせいにします。また、いい結果が出続けることはありません。だから、自分で決めたことに責任を持って追求してほしいです。それが一番悔いが少ないと思います。

何を追求すればいいかわからない人もいると思いますが、気付く時に気付けばいいと思います。焦らず、今という時間を大切に過ごしてほしいと思います。

文責

加藤菜々子（Hijicho）

マダム鳥子のピーチクパーチクうるさいわね！

～今日も悩める雛鳥たちから～ Vol.12

彼氏が好きと言ってくれません。付き合って二か月、喧嘩もせず仲良く過ごしていますが彼が愛情を口に出してくれることはほとんどありません…。無口な彼なりに私を喜ばせようといつも一生懸命行動で示してくれます。でもやっぱり好きって言ってほしくて…。告白のときは言ってくれたのに、さみしいです。どうすれば好きと言ってもらえるでしょうか。（にゃんてぃ）

相手が自分を大切にしてくれているのはわかる、でも言葉にしてほしくてもどかしい……。

そんなことを言ってばっかりのカップルが破局していくのをこれまで一体何度見てきたことかしら！ほんと、あなたたち人間ってやつは！

そりゃまあ、好きって言ってもらえたら嬉しいし、そう望むのは当然の感情だわ。でも言葉での愛情ばかりを重視していると、ふとしたときにあなたたちの関係が急速にダメになる。言葉少なな彼の愛情を今は感じられているでしょうけれど、あなただっていつも心に余裕を持っていられるわけじゃないわ。「話してよ、もっと言葉にしてよ」って、きっといつか苛立ってしまう。落ち着けば解決できる問題ひとつで何もかも取り返しがつかなくなる……そんなの嫌でしょう？言葉に頼ってばっかりじゃダメよ。

言葉って本当はそんなに重要じゃないのよ。考えてもみて！あなたは彼に抱く気持ちを言葉にきちんと表せる？　一緒にいると楽しいとか落ち着くとか、信頼できるとか尊敬できるとか……喜びも迷いも、いろんな気持ちがあるはずでしょう。「好き」が表せるのはそれらのほんの一部にすぎないわ。もちろんそれはとても尊いものだけれど。

「好き」という言葉だけが愛されている証ではないということ、わかってはいるでしょうけど今一度念押ししておくわ。彼があなたのことを思ってしてくれる行動や、あなたのために使ってくれる時間の裏に隠れた深い愛情をくみ取ることができるようになったそのとき、あなたはきっと今よりずっと素敵な女性になれるわ。彼を信じなさい。

乙女心はね、いつだってわがままなの。それを忘れちゃいけないわ。理性ある乙女になることよ。あなたも私もね。

文責　マダム鳥子

新ＢＯＸ来年夏頃移転か

未だ問題山積み

第１合同部室及び第７、８、９合同部室を使用していた一部の団体が共通研究棟に仮移転し、半年以上が経過した。来年には新BOX棟が建設され、現在の共通研究棟から再び移転する予定である。新BOX棟について現在明らかになっていることをまとめた。

新BOX棟は第２体育館の南の第１合同部室及び第７合同部室の跡地付近に建設される予定である。建設が完了するのは来年の春頃で、夏休み頃に移転する見込み。BOXとして使用できる部屋数は40室程度であり、BOXの他にも和室などの部屋もつくられる予定である。

ところが新BOX棟には大きな問題がある。現在の仮移転先である共通研究棟を使用している団体数は57であり、１団体につき１部屋を使用すると考えても十数団体は新BOX棟への入居ができないという状況である。そもそも現在つくられる予定である約40室という数も以前はもっと少なく、30室にも届かないというような状態であった。その計画に異議を唱えた各団体がBOX協議プロジェクトにBOX数の増加を要請し、２階のトイレや共用の部屋などを削って現在のBOX数を確保したのである。つまり、これ以上の部屋数は期待できないと考えてもよい。

この問題に関して大学側は様々な対策を考えている。一つの例として倉庫の建設がある。現在、BOXを物置として使用している団体が一定数あり、そのような団体のために倉庫を建設することでBOXを使用する必要のある団体を減らそうという試みだ。また、明らかに使われていない本館地区のBOXを活用したり、双方の団体の同意の上でルームシェアをさせたりなどと様々な策を考えている。

大学側は、活動の上で本当にBOXを必要とする団体が使用するべきであるという考えを強く持っているようだ。近頃はBOXをただの遊び場として使用したり、禁止されている事項を行ったりするような団体も少なくないという意見もある。自らのBOXの使用法は本当に正しいのか。BOXを持つことができるのは当たり前のことなのか。新BOX棟への移転を機会に今一度考えてみてはどうだろうか。

第７合同部室＝谷口結梨果撮影

文責

土屋拓海（Hijicho）

【重要】ＢＯＸ総会のお知らせ

2018 年度 BOX 総会の日程が決まりました。
BOX(部室)を所有する団体は必ず参加してください。

2018 年度 BOX 総会
日時 7 月 11 日(水) 18:30 より
場所 810 教室

【BOX 総会に出席できない場合】
BOX 所有団体で代表者が出席できない場合、必ず代理を立ててください。
やむを得ず代理を立てられない場合、事前に委任状を提出していただくことで出席と代えることができます。

【委任状について】
件名に「BOX 総会委任状」、本文に①団体名②責任者名③委任の連絡を記載し、[ocu.boxap@gmail.com]までメールにて提出してください。
提出期限は 7 月 10 日の 18:30 です。

文責
土屋拓海、行田美希(いずれも BOX 協議プロジェクト執行部)

第3回「無料法律相談所」

「クラブよ～いドン！」は市大で活動するクラブやサークルを取り上げていくコーナーです。
「あなたのとなりのあの子が所属しているクラブを詳しく知ろう」をコンセプトにしています。

あなたは本学の「無料法律相談所」に行ったことがあるだろうか。この相談所は現役の法学部生が無料で法律相談を行っており、学生からは略して法相と呼ばれている。今回は無料法律相談所の代表である萩原日夏乃さん（法・3年）と、広報担当を務める佐々木優加さん（法・3年）のお二人にお話を伺った。

インタビューの様子＝5月16日、土屋拓海撮影

――無料法律相談所では主にどのような活動をしているのですか？

毎週水曜日の4～5限に、一般の方から無料で法律相談を受けています。また、上回生が後輩に法律を教える基礎ゼミや、市大卒の弁護士の方が実際に相談を受けている様子を見学する、巡回相談というものも年に2回行っています。

――活動頻度と活動場所について教えてください。

基礎ゼミは空きコマが合う部員同士でグループを作り、週に一回程度集まって行います。法律相談が毎週水曜日なので、活動頻度は週2日程度だと思います。活動場所は法学部棟の6階にある専用の部屋です。

引退する3回生との最後のイベントとしてクリスマスコンパもあります。

――どのような相談を受けるのですか？

財産相続や離婚などといった、人と人とのトラブルに関する相談を受けています。警察や公共団体が関係するような問題は受け付けていません。過去には市大生も何人か相談をしに来ていたようです。

――相談はどのように受けつけているのですか？

あらかじめ予約が必要というわけではありません。毎週水曜日の15時から17時が受付時間になっており、直接法学部棟6階に来ていただくという形になっています。ただ、部員も学生なのでテスト期間中は受付していません。

――記事を読んでいる方にメッセージをお願いします。

法律相談所は無料で相談に応じています。学生が相談に応じるからこその敷居の低さ、話しやすさを売りにしています。法律相談所と聞くとどうしても固い印象を持ってしまうと思いますが、少しでも困ったことがあれば気軽に相談しに来てほしいですね。

Twitter：@OCU_housou
公式HP：
http://www.law.osaka-cu.ac.jp/lawcenter/index.htm

文責
大平有里子（Hijicho）

大学ってどんなところ？

市大授業開催

市大授業が4月29日、本学で行われた。このイベントは本学に関心を持っている高校生や保護者などを対象としており、本学の授業やキャンパスの雰囲気を体験し、また大学での学びの楽しさを感じてもらうことを目的に毎年開催されている。文学部と理学部の教員による様々な分野の模擬授業、文学部の学生のフリートークや学術情報総合センターの施設見学会が実施された。

講義を真剣に聞く受講生＝4月29日、犬田美穂撮影

文学部、理学部の両学部で行われた模擬授業には、高校生だけでなく、中学生や一般の方も多く受講していた。受講生たちは皆、教授の話に真剣に耳を傾けていた。井上淳准教授（地球学科）の「チバニアン（千葉時代）と地質時代」を受講した高校1年生の女子生徒は「チバニアンについて聞いたことがあったので興味を持ち受講しました。中学、高校までとは違い深いところまで教えてもらう大学の講義を体験することができ、参加してよかったです。」と感想を述べた。

文学部生とフリートークを楽しむ参加者＝犬田美穂撮影

また文学部では本学教授による講義後、学部生とのフリートークが行われた。このコンテンツは文学部の学びを支援する公式団体である、文学部・文学研究科教育促進支援機構が協力している。学生企画リーダーである河原好美さん（文・2）は、「参加者にはフリートークを通じて市大文学部への悩みや不安を解決したり、その魅力について知ってほしい」と目的を話した。参加者はアルバイトや留学などの大学生活についての生の声を目を輝かせながら聞いていた。

文責

犬田美穂（Hijicho）

レンゲdeすみ博開催

レンゲdeすみ博が5月5日、住吉大社で行われた。この日は雲ひとつない快晴だった。

レンゲ de すみ博とは？

このイベントは区民主体で毎年こどもの日に開催しているもので、子ども向けの企画が数多く行われている。子ども向けのイベントにすることで、子どもとその親が住吉大社に集まり、地域住民同士が関わることのできる大切なイベントである。

住吉大社の反橋＝住吉大社で５月５日、加藤菜々子撮影

どんなことが行われているの？

訪れた子どもたちはこいのぼりの絵付け体験やスタンプラリーなどに取り組み組む。完成したこいのぼりはこの日にしか開放されないレンゲ畑に飾られ、レンゲ畑の中で子どもたちは、レンゲを摘んだり駆け回ったりして遊んでいた。

また、五月殿では小・中学生がヒップホップダンスを、地域住民が南京玉すだれや皿回しを披露した。バルーンアートが披露されているときには、様々な動植物が形作られていく様子を子どもたちは夢中になって眺めていた。

皿回しの様子＝加藤菜々子撮影

五月殿前には鎧と兜を着て記念撮影できる場所があり、親は子どもたちを撮影していた。他にも、ひのきをかんなで削ったときに出る薄い木くずであるかんなくずのプールが置かれ、子供たちはプールの中で嬉しそうに遊んでいた。

かんなくずプールを準備する様子＝行田美希撮影

Hijicho は何をやっているの？

主に子ども向けにスタンプラリーを行いました。クイズに正解するとスタンプがもらえ、すべてのスタンプを集めるとお菓子がもらえます。このスタンプラリーで住吉大社について知ってほしいなという思いから、クイズはすべて住吉大社に関係しています。

1 問目は住吉大社に祀られている神様についてです。住吉大社がある場所はもともと海であり、住吉大社には海の神様が祀られています。

1 問目のポイントの様子＝中村伸二撮影

2 問目は本宮についてです。住吉大社には 4 つの本宮があるのですが、第 4 本宮だけ屋根の形が違います。これは第 1 本宮から第 3 本宮までは男の神様が祀られており、第 4 本宮には女の神様が祀られているからです。子どもたちには屋根の形の違いを発見してもらいました。

2 問目のポイントの様子＝中村伸二撮影

3 問目は種貸社についてです。子どもが欲しかったおじいさんとおばあさんが種貸社に子宝を祈願すると、一寸法師が生まれてきたそうです。この言い伝えから、種貸社には子授けの神様が祀られているそうです。クイズでは一寸法師の紙芝居を行いました。

3 問目のポイントの様子＝中村伸二撮影

一日を通してレンゲ de すみ博は大盛況でした。10 月にもすみ博が行われるので、興味のある人は参加してみてはどうでしょうか。

文責

加藤菜々子（Hijicho）

背が伸びた影響でスカートが短くなりました。悲しい。（結）

チームワークを生かして

第127回ボート祭開催

第127回ボート祭が、桜ノ宮の大川にて5月19日、20日の二日間開催された。雨の予報にもかかわらず、両日とも過ごしやすい快晴となり、5月の気持ちの良い風を受けながら学生や教職員、市民による70艇ほどのボートが大川を駆け抜けた。

熱戦が繰り広げられた＝5月19日、大川にて中村伸二撮影

また、本学と大阪府立大学のそれぞれの学長を加えた2チームが競う「学長レース」も行われた。勝利を納めた荒川学長は「やはりチームワークが重要ですね。今回は府大の辻学長が欠席なさったので、もし参加されていたら結果は違っていたかもしれません」と話した。

大川に隣接したステージでは、青桃会によるライブアート、応援団の演舞、マジックサークルHATによるマジックや落語研究会による漫才などで盛り上がりを見せていた。

ボート祭関係者や、ステージに携わった団体にインタビューを行った。

ボート祭実行委員長　小川聖樹さん

――今回のボート祭に向けていつごろから準備されてきたのですか。

去年の11月から約半年かけて準備してきました。

――そのなかで工夫したことはありますか。

年々参加者が減っており、今回は特に学生の参加者を増やすことにスポットを当てました。大学のイベントなので、学生に多く参加してほしいと考えているからです。具体的には、学生参加者の景品を去年より豪華にしたり、たくさんの部活・サークルに声を掛けたりしました。

――今後はどのような大学イベントが開催される予定ですか。

ボート祭は主に体育会が運営しています。その体育会が主催のイベントとしては、6月に大阪府立大学・大阪市立大学総合競技大会があります。そこでますます体育会の結束力を高めていきたいと思っています。

小川実行委員長

ご当地即席麺にハマっています。（進）

ボート部主将　安東秀人さん

――ボート部ではどのようにボート祭に関わっておられるのですか。

スタートの準備や受付ランキングの作成など、当日の行程が滞りなく進むように運営することが主な役割です。ボート部はもともとボート祭を運営するためにできたものなので、そのような面で大きな役割を果たしています。

――ボート部としてのボート祭における目的はありますか。

ボート祭を通してボートというマイナースポーツをもっと多くの人に知ってもらい、興味を持ってもらうことです。そのためにも学内はもちろん、学外や地域の方にもっと参加してほしいと考えています。しかし、ボート祭は学園祭であるにもかかわらず、ふたば祭や銀杏祭に比べて参加者がとても少ないといった現状があります。もっと広報を活発に行うなどして、よりたくさんの人に参加をしてもらい、他の学園祭に負けないくらい盛り上がる祭になってほしいですね。

安東主将

美術部青桃会

美術部青桃会は、開会式で音楽に合わせて絵を描く、ライブアートを行った。ライブアートならではの迫力のあるパフォーマンスは観客を魅了し、バックステージに描かれた絵は両日ともボート祭のステージを飾り立てていた。

――パフォーマンスを終えられた感想をお願いします。

練習のときよりも良い作品ができたので良かったなと思います。

――準備にはどれほどの時間をかけましたか。

絵の構想や練習などをすべて含めて 1 か月ほどです。

――描く場所の分担はどのように決めましたか。

広範囲を描くのが得意な人や、細かい部分を書くのが得意な人がいるのでそれぞれに合ったところを割り振りました。

――今回の絵のテーマは何ですか。

テーマはボートと桜ノ宮です。そこに森や人なども描きました。

――普段はどのような活動をされていますか。

普段は基本的に個人制作をしています。集団で絵を描く機会はボート祭ぐらいしかないのでボート祭は一大イベントですね。

――今回のライブアートは何回生が中心として行っていますか。

今回は主に 3 年生が中心になっています。1 年生は 6 月の文化週間の最終週間に初めて行うライブアートがあります。学内で行う予定なのでぜひ見に来てください。

完成した作品と青桃会メンバー

応援団

応援団は出場者へ大きな声援を送り、ステージでは演舞を行った。今回が初めての参加となった 1 年生に話を伺った。

――今日を終えての感想を教えてください。

応援しているときは思ったより緊張しませんでした。練習の成果を出すことだけに集中できたので良かったです。

――本番を迎えるにあたってどのような練習をされたんですか。

1週間ほどの期間で週に3回、3時間練習していました。まず各パート（リーダー部、バトン部、吹奏部）ごとに練習し、最後に全員で合わせる、という方法で行っていました。

――これからの目標を教えてください。

私たちは、市大生全員から愛される応援団を目指しています。そのためにこれからのイベントに向けて全力で頑張っていきます。また、新入生でバトン部の人がいないのでぜひ入ってほしいですね。募集中です。

応援団1年生

文責

伊藤美緒、犬田美穂、大瀧智史、福田夏実、行田美希（いずれもHijicho）

あなたの血で命を救え！

献血体験レポ

あなたは献血にどのような印象を持っているだろうか。太い針を刺す献血は怖いと感じる人もいるだろう。実は献血は定期的に本学で受けることができる。授業の空きコマに献血を受けた筆者が、献血とはどのようなものだったかを記す。

献血は年4回、全学共通教育棟の南側に来る献血バスにて行われる。献血で提供できる血液量は200mlと400mlの2種類であるがどちらの血液量にも体重制限があり、一定の体重以下であれば献血を行うことができない。基本的には200mlの血液は低体重の幼児や乳児、400mlの血液はそれ以外の人たちの為に使用される。筆者は400mlを選択した。

献血の大まかな流れとしては、まずタブレットによる問診があり、その後に血圧検査、血液検査、そして採血が行われる。タブレットによる問診では「4週間以内に海外から帰国したか」や、「1年以内に予防接種を受けたか」などを答える。次に血圧検査、血液検査が行われる。血液検査では血中のヘモグロビン濃度を調べてもらうのだが、それと同時に自身の血液型をその場で知ることができる。筆者は把握できていなかった血液型をこの献血を通して知ることができた。これも献血のメリットの一つだろう。また、ここで採取された血液はその後検査され、自分の血液ついてのより詳しい情報を後日郵送してもらうことができる。

ここまでの過程を踏めば次は採血だ。献血バスの中に入り、シートに横になる。その後腕を消毒し、注射となる。注射針は刺されてもあまり痛くはなく、想像していたような強い痛みではなかった。そのまま横になっていると自動的に採血が行われ、10 分程で終了した。献血後は他のバス内で 15 分休憩し献血の全工程が終了となる。休憩の際、飲料水やお礼の品の食べ物、献血のグッズを貰うことができた。この後、1 日を過ごしたが献血による体調不良などは全く感じられなかった。

血液検査を受ける筆者＝4 月 26 日、谷口結梨果撮影

献血を受けることは思った以上に簡単であり、それでいて自分の血液の健康状態を知ることや様々な品を貰うことができる。何よりも献血を通して誰かの命を救うということに関わることができる。集められた血液は主にがん患者の治療に使われ、献血を受けることでそのような人たちの助けになることができるのだ。

献血を受ける筆者

しかし、日本では若年層の献血者は比較的少ない。実は本学の学生は体育会やボランティア系のサークルの協力もあり、他の大学と比較すると献血を受ける人が多いそうだ。筆者が参加した 4 月の献血では 160 以上もの参加者があった。そうであっても献血を行っている赤十字血液センターにおいて 10 代、20 代の血液が足りないというのが現状だ。

献血に興味がある方は次回の 10 月に行われる献血を受けてみてはどうだろうか。

頂いた品々　今回はワッフルだった

文責

土屋拓海（Hijicho）

それゆけ！ちびっこ市大生

杉の子保育園レポ

本学には付属の保育園があることをご存じだろうか。初めて聞いたという人でも、エプロンをした先生に連れられて構内を散歩する幼い子どもたちを見かけたことはあるかもしれない。子どもたちは皆、本学付属の保育園「杉の子保育園」の園児である。

同じ構内にありながらもただ大学生として過ごすだけでは関わる機会のない保育園、そしてその子どもたちについて知るべく、園に取材を行った。

園児たちが遊ぶ部屋。壁の飾りつけは先生の手づくり＝4月18日、中村伸二撮影

杉の子保育園は本学付属の保育園として2009年に設立された。杉本キャンパスの本館地区に位置しており、本学で働く人や学生が子どもを預けることができる。9年前、教育や研究、そして学業と子育ての両立支援を目的としてつくられた。

現在、毎日園に来る月極保育の子どもたちが6名、日ごとに預かる一時保育が3名。教職員や事務員の子どもだけでなく、大学院生を中心とした学生の子どもを預かることも多い。0歳から就学前までの子どもを預けることができるが、現在は2歳までの子どもしかいないそうだ。

子どもたちは朝8時すぎに登園し、以下のような一日を過ごす。

杉の子保育園の一日

午前8時15分　随時登園、自由遊び
午前9時30分　おやつ、朝の会
午前10時　遊び、お散歩など
午前11時　昼食
午後0時30分　お昼寝
午後3時　起床
午後3時15分　おやつ、お帰りの会
午後3時45分　自由遊び
午後4時30分　随時降園

10時からの散歩ではワシントン広場や理学部棟前など杉本キャンパス構内のほか、浅香公園など構外に行くこともある。特に馬術部の厩舎は子どもたちに大人気のお散歩コースで、「お馬さんが見たい！」と言われることも多いという。

保育士の先生は、「学生が手を振ると子どもたちはとても喜びます。お散歩中もぜひ声をかけてほしい」と話した。

普通の保育園であれば園庭がないところも多いが、大学付属の保育園は大学構内で遊べるのが魅力だという。秋には構内のいちょうの木の下で落ち葉で遊ぶなど、子どもたちは自然に触れるのをとても楽しんでいるそうだ。

その他、運動会やクリスマス会、七夕に合わせた

スイッチ買いました。家から出られません。（後）

夏祭りなどイベントも多い。イベントの日程を事前に告知するようにしているので、一時保育の子どもたちも多く参加してくれるのだという。

昼食やおやつは園で調理しているもの

この日取材させてもらったのはお昼寝後のおやつとお帰りの会の時間。子どもたちは記者たちを警戒しているようで、いつもより大人しいとのことだった。子どもたちは手作りのおやつを食べた後、絵本を読んでもらってから先生のピアノに合わせて帰りの歌を歌っていた。

おやつを食べる子どもたち。「おかわり！」という子も

杉の子保育園担当部署の人事課の東良樹さんは、「大学にある保育園としての魅力を作ることが今後の課題です」と話す。これまでにも、保育園の運営について研究する商学部のゼミに話をするなど学生との関わりはあったが、今後はより積極的に学生と交流していきたいという。「ハロウィンの時期には子どもたちが仮装して、あらかじめ人事課がいろんな部署に配っておいたお菓子をもらいに構内を歩き回るイベントをしています。そういう企画を、例えば大学のクラブと連携してできたらより楽しいかなと考えています」と語った。

サークルで、個人で、ゼミで。大学付属の保育園という環境を生かし、園児と大学生の交流を深めていけるよう、学生側から企画してみてはどうだろうか。

ブロックで遊ぶ子どもたち

文責

行田美希（Hijicho）

市大フォト募集！

ここってホントに市大？と思うような写真を募集しています。
素晴らしい作品には優秀賞として新聞に掲載します。
あなたの珠玉の一枚をお待ちしています！

投稿はこちらから↑

市大川柳

https://goo.gl/ldrrjF

大阪市立大学新聞 Hijichoは、市大や市大生の生活に関する川柳を募集しています。賞の選考を毎月行い、紙面（ウェブ版なども含む）で発表します。今回も多くの作品をご応募いただきました。ありがとうございました。

金賞

雨が好き　ほほえみ写す　水たまり

アムロツヨシ

梅雨も憂鬱なことばかりではありませんよね。いつもご応募ありがとうございます。

銀賞

6月になっても続くよ5月病

士

それはただのサボり癖ですね。気合入れていきましょう。

銅賞

休み明け　未だにやる気は　連休中

卒業したい豚

言ってるうちに夏休みが来ますよ！卒業目指して頑張って下さい。

次号も皆さまからの川柳を掲載します。ページ上のQRコードからご応募ください。締め切りは6月18日です。

大喜利コーナー ICHIDAIグランプリ

お題
1限の授業に誰も来なかった。どうして？

金賞
来た人から前から順番に座らされていくシステム（田中記念館）

銀賞
思ったより朝が早く来た

銅賞
カラスにICカードを取られた（猫）

http://qq4q.biz/G8pr

http://qq4q.biz/G8po

7月号のお題（6月18日締め切り）は「ディーンフジオカが訪れたことで有名、五代友厚像にまつわる怖い話とは…？」です。回答は上側、お題は下側のQRコードからご投稿ください。

発行所　©大阪市立大学新聞
〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138　大阪市立大学杉本キャンパス旧教養地区　共通研究棟121号室
hijicho@gmail.com　http://hijicho.com/